

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571300116		
法人名	医療法人 敬滋会		
事業所名	グループホーム 野洲すみれホーム		
所在地	滋賀県野洲市小篠原476番地1		
自己評価作成日	令和3年5月10日	評価結果市町村受理日	令和3年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2571300116-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号		
訪問調査日	令和3年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな事業所を目指し、利用者様・職員共に笑顔で過ごせる空間作りを念頭に置き職員一同日々業務に取り組んでいる。
 特別養護老人ホーム等に入居申し込みされている利用者様にも、入居までの短い期間での当施設入居も受け入れている。
 特に力を入れている点として日常生活の中で利用者様自身のリズムで生活できるようにサポートしていけるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野洲すみれホームは、2020年8月に開所した事業所である。開所当時より自治会に加入し、日常的な散歩での挨拶や、ふれあい、自治会の行事へ積極的に参加し、地域住民との交流をと考えていたが、コロナ禍の自粛のため実現は出来なかった。今後、安全が確保できるようになれば交流を広げていきたい意向である。 コロナ禍 のため、日常的な外出は、自粛したが気分転換のドライブや体力低下予防のリモート体操を取り入れる等の支援されている。家族等の面会もリモートで行えるようになり、職員は、本人、家族等の声を大切に、温かで穏やかな暮らしの支援に努めて行きたいと取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を心得ている。 日々心がけるようにしている。 理念の共有が出来ていない。	事業所独自の理念を2021年1月に掲げ、実践に努めているが、理念の理解、共有にばらつきがある。	常に理念に立ち戻り、意識して取り組むことが大切と考えます。定期的に振り返りの機会を持たれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との付き合いがない。 地域との交流は出来ていない。(出来ない。)	開所時より自治会に加入している。コロナ禍のため地域住民との交流がほとんど出来ていない。安全が見通せるようになれば、日頃の散歩時の挨拶や、会話、自治会行事、地域の祭り等へ積極的に参加して交流を広げていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで地域の方の意見を得る機会がない。 地域貢献が出来ていない。 地域への発信方法がわからない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議へ参加していないのでわからない。 出来ていない。	2020年11月までは、利用者家族、自治会代表、民生員、市職員の参加で意見交換を行っていたが12月より事業所の現状報告を書面で行い各メンバーに送付し意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、出来ない。 担当外。	市の担当者とは、必要時に電話や書面で、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていないし、研修等で学んでいる。 玄関の施錠はしているが、利用者が生活しやすいように配慮している。 理解できていないところもある為、具体的な行為を知りたい。	身体拘束をしないケアについての研修は、行われているが、昼夜において玄関の施錠が行われていて、身体拘束をしないケアについて理解のずれがある。	玄関の施錠について職員間で話し合われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは具体的にどのようなものか勉強不足である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様と予算について入所前にお聞きしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一般職員ではわからない。 入所後、家族様とお会いした際に疑問点をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族様とお会いできていない。 意見を常に聞くようにしている。	コロナ禍の感染防止のため、直接会って意見を聞く機会は、少なかったが、電話で聞いたり、病院の通院時に意識的に意見や要望を伺った。本人や、家族等の意見や要望は、職員間で話し合い反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議を設け、意見や提案は繁栄されている。 職員の意見を聞き実行に移している。 提案や反映を出来ていない。	職員間の雰囲気は良く、意見や提案は、出しやすいと職員より聞き取った。介護記録用紙の改善やコロナ禍でも利用者の気分転換をとの提案でドライブ外出が実現した。管理者との面談も計画されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事をしやすい環境を作るように心がけている。 勤めているとは思えない。職場環境、条件の具体的内容を理解していない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カバーはこれからも行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナ禍の為、行っていない。 月に1回内部研修を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に言葉かけなどを行っている。 安心と信頼に向けた関係づくりに努めている。 利用者、職員が困っている場合、傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っている時等傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人が望んでいるケア内容を実施する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の人が多いので世間話をするようにし、言葉の返事をしてあげる。 本人と共に過ごし、支えあう関係を築いている。その利用者に合ったケアをしていく。 築けていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍でお会いできていない。 本人を共に支えあう家族とともに本人を支えている関係を築いている。 本人との信頼関係を大切にしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない。 職員同士もつと信頼関係を築く。 出来ていない。	事業所のケアマネジャーが、入居前の面談で、本人、家族より、馴染みの場所や人を聞いて把握し、ケア職員と共有している。コロナ禍で、積極的な支援が出来なかったが、コロナ収束後は、関係が途切れない支援に努めたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の輪の中に複数の利用者様に加わって頂くように注意している。 利用者同士関わり支えあえるような支援に努めている。 上の立場なので支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に連携をとる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が生活しやすいケアを行う。 勤めていない。	日々の暮らしのケアの中で、思いや、意向を把握するよう努めているが、言葉にしやすい方の行動や、表情から読み取ることが難しいと感じている職員もいる。	利用者、一人、ひとりの思いや意向を把握し検討していくことが生活の質に関わって来ます。今後に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一日の生活の流れの中で行動に注意するようにしている。 その人に合ったケアをしていく。 カルテを見るだけで勤めていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や、心身状態、現状の把握に努めている。 一人一人の行動の把握に努める。 現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成している。 3か月に1回はケアの見直しを行うモニタリングを実施している。	本人とは、日頃の関わりの中で、家族等とは、コロナ禍であるため電話や通院付き添い時に思いや意見を聞き反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している中で気づきには他の職員と共有できている。職員間で情報を共有しながら介護計画に活かしている。常に連携が大切になってくる。 個別記録に記入しているが、介護計画の見直しに活かしているか不明。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者を常に観察し、支援を行う必要がある。 取り組めていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	のびのびした生活で過ごしてもらおう。 支援できていない。地域資源とは？		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変などあれば、Drと相談し必要に応じて受診して頂く。	本人、家族が希望する、かかりつけ医に通院されている方が多い。受診は、家族同行を基本とし、日々の生活情報や変化を職員（主にケアマネ）が付き添い、伝えるようにしている。通院が困難な方は、協力医の往診を希望されている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NslはいないのでDrとの連携を大切にしていきたい。 看護師がいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後1週間後には状態を聞ける関係づくりを継続していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所された時に延命の書類に記入してもらっている、それに沿ってケアしていく。	開所後、間もなく、事業所の体制が整っていないため看取りは行っていない。重度化された場合は、随時、主治医と連携をとり、事業所で出来得るケアに努める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャート、マニュアルがあるので職員には目を通してもらっている。 定期訓練はない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はしている。 災害対策、協力体制がない。	定期的に災害訓練は行われている。昨年は、警報機の使用方を指導してもらった。地域との協力体制について運営推進会議で話し合いたいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。 たいおうしている。 言葉遣いに注意をしている。	利用者への言葉がけは、敬語を基本としているが、時々敬語ではない言葉が聞こえてくることもある。その時は、その場で管理者が注意したり、個人面談の時に、話をし徐々に改善されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しいと思う。家に帰りたとい話される方には認知もあり理解してもらえないことも多い。 一人では決定できないこともあるので相談する。 基本的に希望を聞くことが少ないように思わ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えあれば傾聴している。 希望に沿った支援は出来ていない。基本が職員側の決まり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。 支援できていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しい食事を提供できるように心がけている。 利用者と一緒に出来ていない。	利用者には、食器を拭いてもらっている。月に1度調理レクリエーションの日を設けている。最近では、ハンバーガーを食べて殆どの利用者が完食した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事形態で提供している。 少しでも水分をとって頂くための声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。 一人一人の口腔内の状態や本人の方に応じた口腔ケアをしている。 毎食後口腔ケアを実施している。 毎食後は出来ていないこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間的、その人の様子や行動の変化に注意している。 一人一人の力や排泄パターン習慣を活かしてトイレでの排泄に向けた支援を行っている。 自立に向けた支援は出来ていない。	日中、オムツを使用している利用者はおらず、できるだけ最後までトイレにて排せつが出来るように支援している。毎週水曜日に、リモートで鍼灸院の先生が体操などを行ってくださっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントによって下剤を服用して頂いている。 薬での対応のみ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のADLに沿って曜日を決めている。 支援できていない。	利用者より、入浴剤を入れて欲しいと要望があり実施に向けて話し合っている。現在、男性職員が多く同性介助が出来ていないが、職員の体制が整い次第、同性介助を実行したいと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	他の職員と相談して利用者様に合わせて休息して頂いている。 安心して眠れるように支援している。 気持ちよく生活できるように支援している。 生活習慣の確認が出来ていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認の為、職員2人でチェックしている。 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 名前と顔が一致しているを確認しながら服用してもらっている。 薬の理解が出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間でレクを楽しんでいただける支援を行っている。 レクの時間を大切に、気分転換して頂く。 出来ない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が収まればドライブや散歩を行いたい。 支援できていない。	コロナ禍で外出は出来ないが、コロナが落ち着けば近隣の神社や車での外出を計画している。介護計画書にも散歩などの外出支援を盛り込んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方は家族の支援も必要。 対応していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方には行って頂いている。 支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保っていただける職場にしたい。 個人的には出来ていない。	オープンして間もないこともあり、事業所内は、とても清潔感と開放感が感じられる。清潔の意識が高く食後などは、床を清掃することもある。ユニット内の壁には、季節の草花のほり絵やちぎり絵が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席で利用者間のトラブルの無いように配置している。 工夫は出来ていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	されている方、されていない方がいる。 思い出の品をタンスに並べて生活して頂いている。 特になし。	居室には、備え付けのタンスとベッドが準備され、入居する利用者、家族の負担が軽減すると考えられる。基本的に、居室へ持ち込めない物はない。居室の掃除は、利用者が行ったり職員が行ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の出来ることはしていただき、生活を送って頂いている。 出来ることはしていただき、他は介助する。 自立した生活とは？		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念は掲げているが職員による実践が出来ていない。 利用者様から職員同士の会話の内容や言葉遣いについての指摘を受けることがある。	職員一人一人が理念を理解し、利用者様はもちろん、職員に対しても実践できる。 職員が理念に触れる機会を作り理念に向けた取り組みを行う。 職員が言葉遣いや会話に対して接遇面を意識し、利用者様にとっても職員に対し話しかけやすい雰囲気をつくる。	・月1回の会議で理念の唱和を行い施設としてどのような理念を掲げているか理解する。 ・内部研修にて理念とは何なのか、根本的なことを学び実践していく。 ・職員間で言葉遣いの乱れなど、気になることを指摘しあう。 ・利用者様に対して常に笑顔で接し、職員を生活の一部として受け入れて頂く。	3ヶ月
2	37	職員の中には利用者様の意見を聞かず、職員本位になっていることがみられる。	利用者様の立場に立って接し、利用者様本位で考え、出来る限り利用者様の希望する生活を送って頂く。	・内部研修にてグループワークを行い、利用者様の立場に立つとはどのような事なのか理解する。	6ヶ月
3	11	会議や意見ノート等で提案の場を設けているが、すべての職員が意見できているわけではない。	すべての職員が意見できる環境を作る。	・定期的に職員面談を行い、意見をまとめた後、施設会議にて提案する。	6ヶ月
4	13	内部研修を行っているが出席率がいいとは言えず書面だけの研修になってしまっている。	文章を読むだけではなく、一人一人が考える研修を実践する。	・グループワークを取り入れ、実践的な研修を行い、参加を促す。	3ヶ月
5	6	身体拘束について、ユニット内では行っていないが、玄関の施錠を行っている為利用者様の自由度が高いとは言えない。	日中、玄関を解錠し自由に出入りできるようにする。(夜間は防犯上施錠する。)	・時間を決めて短時間でも解錠する。 ・対応可能なスタッフ人員を確保する。 ・少しずつ解錠時間を増やす。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()